

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4570500258		
法人名	医療法人信和会		
事業所名	グループホーム和楽		
所在地	宮崎県小林市大字堤2939 (電話) 0984-22-7736		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】（平成20年6月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年3月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人， 非常勤4人， 常勤換算10.6人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	18,900～22,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

（4）利用者の概要（平成20年6月20日現在）

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3	要介護2	6
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.16 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小林保養院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小林市の市街地にあり国道に面した同医療法人が運営する病院、介護療養型医療施設、認知症疾患センターなどの施設が点在する敷地の一角にある。同法人でもある協力医療機関は、認知症専門の医療機関でもあり常に相談できる体制にある。ホームは事務所を中心に2ユニットに分かれており、各ユニットは往来が可能である。わかりやすい独自の理念を掲げ、管理者は限られた職員数の中でケアについて常に職員と話し合いを持ち、利用者の状況に合わせた介護サービスの提供が行われていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	自己評価、外部評価の実施意義については理解されており、前回の評価であがった項目は少しずつ取り組みが開始されていた。施設の件や地域とのつきあいなど、項目によってはまだ改善できていないところもある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	評価の意義とねらいについて管理者・職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。今回新たに見いだされた課題もあった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	2か月に1回の頻度で行政職、家族の代表、ホームの管理者、地域の代表者などの参加の下、ホームの取り組みや利用者の状態などの報告がなされている。行政職の方が参加していただくことにより、連携がスムーズに図れるようになってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	運営推進会議での家族代表の意見、意見箱の設置や家族来訪時に直接意見や要望を聞いている。現状としては意見、苦情など少ない状況である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	小学生が草取りに来訪してくれたり、地区長などから少しずつ意見を聞くことができるようになっているが、事業所自体は地区住民としての交流は少ない。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を考え、「すこやかに和気あいあいと、楽しい暮らし」とわかりやすい独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期会議や朝のミーティングで常に理念について話し合いの機会を持ち、理解と共有に努めている。また、理念がわかりやすいこともあり実践の中に生かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の小学生が来訪し草取りを行ったり、地区長さんからのアドバイスを聞く環境になっているが、地区住民としての交流は少ない。	○	自治会への参加や事業所の活動に参加していただけるよう、積極的な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組み少しずつ改善はされているが具体的な改善計画をたて、実施までの取り組みは行われていない。	○	具体的な改善計画を立てて取り組んでほしい。

宮崎県小林市 グループホーム和楽

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行政職、地域包括支援センター職員、家族会の代表、事業所職員、知見者の参加のもと運営推進会議を開催し、会議での意見を参考にケアに生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ行政職が参加することにより意見交換が活発に行えるようになった。また、地域包括支援センターが中心となり市内にあるホームとの意見交換ができるよう定期会議の開催なども行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求書送付時に「便り」を同封し利用者の健康状況や暮らしぶり、職員の異動等について報告している。また、家族の来訪時にも同様に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の来訪時に意見を聞くように努力はしているが、家族からの意見は少ない状況である。	○	積極的な家族との関わりの中で、引き続き意見の出しやすい環境作りを行ってほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動が発生することはないが、新規採用があった場合は便りなどを利用して対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を開催している。また、外部の研修へも参加できる体制にある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の包括支援センターを中心に定期的に市内にある5か所のグループホームで意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、県西地区ブロックでの会議も年3回開催し、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人を含め家族の見学を行い、本人の意向を十分把握し、徐々に雰囲気になじめるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのかかわりの中で、同じ目線で共に過ごし利用者から学ぶことや支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいか、どのような暮らしを望んでいるか、日々の生活を通して本人本位の希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、ケアマネージャーを中心に話し合い、利用者の立場に立った介護計画が作成されている。また、家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回定期的に作成されている。計画の遂行状況・効果など朝のミーティングや申し送りを通して現状に即した話し合いが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院サービスや福利厚生費として同意を得て徴収し、個々の外出や季節に応じた外出サービスなども行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する掛かりつけ医を受診できるよう支援している。また、協力医療機関が認知症専門であり、良好な関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では看取りは行っていない。重度化に向けた指針を作成して同法人や他の医療機関へ移ることができるよう対応している。	○	利用者の重度化に伴い本人、家族の意向で看取りについての希望も発生すると思われるので今後、検討を行ってほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応はプライバシーを損ねないように十分配慮されており、個人情報についても留意され管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の1日の日課はあるが業務を優先することなく本人のペースに合わせ希望に沿って支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化に伴い食事の準備などができる利用者は少なくなっているが、利用者と職員は同じ食卓を囲み同じ物を楽しく食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人からの曜日や時間帯の希望は無いが、毎日入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる限り利用者の能力や特性を生かし、野菜作りや洗濯物をたたむなどの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物やドライブなど月1回は外出ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかける弊害は理解しているが、玄関は日中施錠してある。	○	利用者がどのような欲求で外に出たがるのか、また、どのような時間帯に外に出たがるのかを把握し、少しの時間でも施錠しなくてすむよう取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の避難訓練は定期で行われている。地区長からのアドバイスで地域の協力体制について話し合いができるよう取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士へ食事量や栄養のバランスについて相談したり、嚥下・咀嚼の状態に合わせ刻み食にするなどの工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間には畳のスペースやソファなどがゆったりと設置してある。不快な音や光もなく安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部装飾や家具など持ち込みはあるが、殺風景な居室となっている。	○	使い慣れたなじみの物や家族に協力をお願いし、本人が心地よく過ごせるような環境作りを望みたい。

※  は、重点項目。